



おせんち山

『松田先生』のこと

今尾淳子 11卒

「第六」と言えば、すぐ思い出すのは「国語の時間、松田先生。月一回のお話会。一課が終わると感想文の発表。『質問がないのは、解らない処はないのだな、では次』とどんどん進み、試験は何時あるかも判らず、書取りも新聞の社説から等々ユニークな授業でした。

お陰様で、教科書に出て来る作家の本は、一所懸命読み、新聞も先づ社説からの習慣もつきました。

ある時は、運命なんてないのだよ」と、苦勞を背負って居る私達を元気づけて下さいました。

また、困ったことに出会ったから、「一晩中寝ないで考えたって駄目だ。一晩ゆっくりに眠って、新しい心で考え直せ。」淋しい事が有ったり、風呂に入れば、身体が温まると、心も温まる」と、何時もくっ将来を案じ助まして下さった先生。心を下さった松田先生、本当に有難うございました。

五月に念願叶い、大分に先生をお尋ね致し、お元気な温顔を拝した事は、何よりの喜びでございます。

作家への動機

渡辺康子 25卒

東京育ちの私は時々仮定で考えることがある。もし都会での消費生活がそのまま現在まで続いたら、と。おそらく大きな自然の美しさ知らず、親しい機会もなかったであろう。都会から離れた土地の人々の暮らしも知らず、人の心も今よりもっと理解出来ぬまま一生を終るのではなからうか、と。戦争はあつてはならないし、二度と経験したくない。それでいて私の感じやすい14才も16才(中2も高1)という時期に、地方での生活、貴重な体験を味わせてくれたのは戦争のための頭開であった。今は遠い思い出となって苦しみももうすれたいせいか、貴重な体験をした疎開も感謝の対象になつてい

都念の子が地方でただ二年間暮らし、再び都会へ戻って大人になる、それだけでもいろいろな経験を積む筈だ。私の場合は、疎開した南九州の県立校へ転校するとすぐ農業の勤勞奉仕という重労働があつた。自宅に農地のない生徒は、戦場へ行って男手のない農家へ手伝いに行くのだ。自家用車を運搬している現在の綺麗な農家の奥さん達には想像もつかない厳しい年間の

作業があつた。稲作なら田植え、草とり、稲刈り、畑作なら麦まき、麦踏み、麦刈り、芋植え、芋掘り等々。

自然と体験と人の心

渡辺康子 25卒

学校の名称は初期の頃、府立第六高女学校でした。

もともと理科系の科日が好きであつた私が何かを書きたいと思つたようになったのはこの頃であつた。農作業をしなから自然も自分も生きていくことを実感した。限らない自然の美しさに打たれて立ちつくれた南九州の海辺の町で何かを書く現在の私が羽となつて出現したように思える。

もともと理科系の科日が好きであつた私が何かを書きたいと思つたようになったのはこの頃であつた。農作業をしなから自然も自分も生きていくことを実感した。限らない自然の美しさに打たれて立ちつくれた南九州の海辺の町で何かを書く現在の私が羽となつて出現したように思える。

卒業アルバム

徳江義弘 42卒

四年生の後半に入り、卒業アルバムを作製する事になった。入学時から計画して写真を写しておけば問題がなかったのだが、自分自身夜学の四年間を思い、また卒業できると思わなかつた。さあ、それからが大変。四年間の写真を集める事になったがうまく集まらずあせるばかり。そんな中、太陽の下でやつた体育祭のクラブ対抗、クラス対抗、文化祭の模擬店などの写真が集まりはじめた。一年、二年クラス交際の集合写真、三年、四年の集合写真、その間で欠けていた同級生の顔などが段々と見えてきた。寂しさ、定時制高校(高夜連)体育競技会での各クラブの活躍、生徒会活動など次々と思い出され、編集の時、楽しくもあり、また残念な思いがした。戻らないうスナップはモデルになり写す。室内プール、図書館、おせんち山などを加えて、夏休みの林間学校、冬のスキー教室に参加したスナップ。特に楽しかったのが林間学校への四年間全部の参加。川原で作ったカレイライス、これは特に甘かつた。自分で作つたので、そんな思いが次々と出てきた。そして最後の仕上げ、

全員一人ひとりの写真屋さんによる記念写真。男子は全員黒ボタンの詰め襟姿で統一して出来上がった卒業写真でした。出来栄は、これも皆様の協力があつたればの事、この場を借りお礼申し上げます。どうもありがとうございます。私にとつて楽しいアルバムが出来ました。そんな思いも早く20数年経つてしまいましたが、

全員の一人ひとりの写真屋さんによる記念写真。男子は全員黒ボタンの詰め襟姿で統一して出来上がった卒業写真でした。出来栄は、これも皆様の協力があつたればの事、この場を借りお礼申し上げます。どうもありがとうございます。私にとつて楽しいアルバムが出来ました。そんな思いも早く20数年経つてしまいましたが、

H君がんばれ

坂口忠男 43卒

知人の日さんから、その年定時制高校に入学した息子さんのことで電話があつたのは二年前のことでした。全日制を目ざしたものの失敗。スベリ止め。をしなかつたため、中学没入をさらつて自ら定時制を選んだといいますが、でも、中卒、十五歳の男の子が働ける場所は少なく、「アラアラさせておくわけにいかないの、アルバイトをさがしているのですが」といふのが、このお母さんの相談でした。

受験競争に敗れ、昼間からアパートの一室でゴロ寝して居る様子が目に浮かんでききます。23年前、彼と同じ三田の定時制に通つた者として精いっぱい助言をしたつもりです。きっと卒業を果たし、懸命に生きていくことをみんなに知らせてくれるでしょう。日さんと息子さん、がんばってください。

緑「夕鶴」が出てきました。昭和五三年三月一日付、B5、四六ページの、卒業生を送る会上演した劇の台本です。

夕鶴の思い出

田中美佐子 55卒

配役はつう石川マリ子(二年)とつう永見栄一(三年)とつう大野喜三男(一年)とつう秋山初枝(二年)とつうもたち(一年生と二年生)アシスタント佐々木光江(二年)とあり。音楽講堂使用、居残り時間まで克明に記録されて、約二ヶ月毎週五日稽古が続き、雑用係の私まで全員がこの劇に熱中しました。

担任の寺井先生は指導と小道具を引き受けられ、お宅から手作りの小判、鳥の羽、毬子まで運び込まれる熱の入れよう、子守心を合わせて実に楽しい日々が過ぎました。日頃大まじめな寺井先生のひとこと「君たち夫婦なんだよ、もつとつうの肩をぢやんと抱いて」に全員が大爆笑。先生、ほくしい夜なんです。先生、顔を赤くした永見君の姿が今も目に浮かびます。なつかしい友だち、みんなお元気でしょうか。

卒業後慶応義塾大学通信教育課程に学んでおります。入学手続きは書類審査のみにて開かれた大学に入学しました。配布されたテキストを読んで出題にそつてレポートを提出します。進まないで困つた時は質問書を出し説明を受けました。レポートを提出する科目目録がつけられ両方合格すると単位が取得できます。

学ぶ経緯

斉藤静代 59卒

この様に学んでいます。いかに高校時代の学問が大切であつたかがよくわかります。面接授業は夏と秋とにあり、一日目を毎日一週間つづけて八日に試験をうけ合格すると単位が取得出来ます。この間50分授業が二コマ続き、午後は他の授業をうけます。年間八単位です。三年以上は十二単位まで受講が出来ます。早い人は満四年で卒業となります。私もつづけておりますので、大分取得しましたが、まだ果たしきれずに難航しております。学び得た学問をどのように展開させ、かつ活用するか今後の課題でございます。感謝の意を込めて御健康と青葉会の発展を心よりお祈り申し上げます。

三田で学んだ四年間は、私にとって最も充実した感謝の日々でした。その後、明治学院大学二部社会学部に進学しましたが、卒業後も社会学部史の教授に師事、日本点字図書館にパート勤務の傍ら、高齢化社会の対外比較、地域女性史の研究を続けております。昨年は六月から三月、オランダ、ドイツ、イギリスに高齢者の社会参加のあり方、福祉施設見学に出かけました。卒業から一年、力が少なくなり、青葉会のお手伝いもおろそかになりまして、申し訳なく思っております。

学校の移り変りに

青沢一明 61卒

渋谷区議会にお送りいたいて半年、文教委員会に所属し、区内の小中学校などの学校施設や図書館をはじめとする社会教育の現場を見てまわる多忙な日々を送っております。